

閉会の辞

全学共通カリキュラム運営センター部長
文学部教授
青木 康



○**平山** 先生方、ありがとうございました。それでは、これから閉会のご挨拶に移ります。閉会のご挨拶は、全学共通カリキュラム運営センター部長の青木康先生より頂戴いたします。青木先生、よろしく願いいたします。

○**青木** 立教大学の全学共通カリキュラム運営センターという、全学の教養教育を担当している部局の部長をしております青木と申します。実は日本語教育センターの前身というのか、本学の日本語教育の責任部局というのは、以前は、私が今、所管している全学共通カリキュラム運営センターの中の日本語教育研究室という単位でした。それが、現在は独立して日本語教育センターということになっていて、そして、全学共通カリキュラムのほうの日本語科目は、日本語教育センターから提供していただくという形で現在は動かしています。今日はそういうご縁もあって、こちらのシンポジウムの最後の締め挨拶ということになったのですが、うかがっていて、確かに日本語のことは当然ながら話題になっているんですが、基本的にすべての教育の本質に関わる問題をいろいろな形で提起していただいていると思います。要するに、基本的に学生の立場に立って考えるであるとか、学生が違う環境のところにおいて何かのことを学ぶ。それをどうやったら学びやすい形にできるか。そういう人がまた入ってくることによって、本来そこにいた学生たちがどんな影響を受けるか。これは直接的には確かに留学生、特に日本の大学における留学生で言えば、日本語の問題ということになるかもしれないのですが、実は立教の学生が他大に行って、特に外国の大学に行ってお世話になる。そのときに、違う言語かもしれませんが、本質的には同じような問題をお互いに抱えることになる。そういう意味では、本当に教育のすべての問題が実は今

日ここにあったかなと思って、私としては大変勉強させていただいて、ありがたく思っています。冒頭のところでは、私は別の所用でお聴きすることができなかった分もごめいですが、大変面白いご意見、特に池田先生の発言などは大変面白かったんですが、面白いだけではなくて、本当に有益ないろいろなご意見を、フロアからも含めてうかがうことができ、大変ありがたく存じました。どうも本日はありがとうございました。

○平山 青木先生、ありがとうございました。これをもちまして、本日のシンポジウムを終了させていただきます。本日は長時間にわたりましてご静聴くださりまして、まことにありがとうございました。

なお、先ほどお配りしたアンケートは、入り口付近に係の者がおりますので、お帰りの際にご提出ください。ご協力をよろしくお願いいたします。

また、お帰りの際はお手荷物をご確認の上、お忘れ物のないようにお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

(終了)